



庶民の会
はやしだ つとむ
林田 勉 議員

広域農道（グリーンロード）沿い、小学生、子供たちの通学路、歩行者の安全確保を！

Q 広域農道の現在の交通量は。管理者は誰か。

A 令和3年度午前7時から午後7時までの12時間で1万2千台が通行している。管理者は島原市である。

Q 湯江地区の子供たちが農道沿いを通学している通学路はどこか。利用している人数は。

A 農道を利用しなければかなり遠回りになる。保護者の申出を受け、通学路としている。現在21名が通っている。

Q 歩道部分が40センチメートルしかない危険な部分があり、大きな事故が起きる前に市として早急に、歩行箇所の改善をすべきであるが。

A 危険除去に向け、畑の所有者あたりに協力依頼をしてみたい。

市のSNS・情報発信主体から市民と相互活用で安心できる街づくりを！

Q 昨年からは始めた「街の不具合通報システム」とは。

A 市の公式LINEを登録した人が道路・公園などの損傷を市へ通報できるシステムである。

Q 「街の不具合通報システム」の類似利用で「よろず困りごと相談・通報システム」を新設できないか。市民が「こんなときはどうすればいい？」や虐待・DV・ネグレクトなど事前の活用や、「街のいいところ見つけた」など身近な情報発信をしたらどうか。

A 便利さと併せてルールも一緒に考えていけば、いい方向に進めると思う。

新年度予算編成について方針は

Q 特色と方向性があれば説明を。

A 人口減を見据えた地域コミュニティ・企業誘致・交流人口増加、特に少子化対策を重点施策で詰めていく。

Q 高齢者は本市の財産。「高齢者チャレンジ事業」を創設し、第三の人生を市の活性化へ喚起できないか。

A 提案は高齢者に夢を与える前向きなもの。子育て世代とは別に高齢者なりの支援があると思われる。



バラの会
ほんだ みえ
本田 みえ 議員

障がいがある人もない人も全ての人が住みやすい町づくりを

Q 障がいの者の日頃の生活実態を把握しているか。

A 全ての把握はできていない。2～3年に1度の認定調査で生活状況を把握している。代表と道路診断を行い、アドバイス、声を届けてもらっている。

Q ガイドヘルパーの利用は。

A 通常、数日前に利用の申出。当日でも都合がつけば利用可能。

Q コロナ対策での障がいに応じた対応がされているか。

A 連絡できる人へは、市・県のホームページで知らせたり、できない人へは、地域の支援者の協力を経てつなぐ。福祉サービスの利用者は、事業者へ相談し受診案内をしてもらうようにしている。

ワンストップ対応で市民サービスの向上ははかられたのか

Q ワンストップ化で市民サービスの向上はどうなったか。

A おくやみコーナーを新設し、移動することなく一つの窓口で様々な手続きが済む。住民票の異動、印鑑登録証、福祉関係、保険関係、介護関係の手続き。死亡とは関係なく、農地証明も市民窓口サービス課でできる。

Q 直営以外で行っているところの責任の所在はどうなっているのか。

A 教育委員会が管理する施設の、行政財産目的外使用許可が必要な件は、責任の所在は教育委員会にある。

Q 何回も足を運ばせず、最初からきちんと対応を取っていただきたいが。

A 市民に接するとき、きちんと情報等を持った上で責任ある対応をすることは基本。

社会の半分は女性 社会の仕事組みを考える場にクオータ制を

Q 朝来市の事例、どのように取り入れていくのか。

A 地域の女性を含め、顔の見える関係で話し合いの場をつくってもらおうよう提供したい。